

日本スポーツ人類学会

第 26 回大会

プログラム・抄録集



会期:2025年3月15日(土)・16日(日)

主催:日本スポーツ人類学会

後援:磐田市 磐田市教育委員会

会場:静岡産業大学磐田キャンパス

大会概要

1. 大会名

日本スポーツ人類学会第 26 回大会

2. 会期

2025 年 3 月 15 日(土)、16 日(日)対面式

3 月 15 日(土) 午後:一般研究発表、基調講演、懇親会

3 月 16 日(日) 午前:一般研究発表 午後:シンポジウム、総会

3. 場所

静岡産業大学磐田キャンパス(〒438-0043 静岡県磐田市大原 1572-1)

4. 主催

日本スポーツ人類学会

5. 後援

磐田市、磐田市教育委員会

6. アクセス

電車でお越しの場合



JR 東海道本線「磐田駅」南口下車徒歩 20 分(約 1.8km)

※15 日の懇親会後と 16 日の総会後に磐田駅行きの無料送迎バスが出ます。

お車でお越しの場合

国道 1 号線磐田バイパス「見付 I.C.」から車で 10 分、東名高速道路「磐田 I.C.」から車で約 13 分

※駐車場は無料でご利用になれます。

7. 第 26 回実行委員会

委員長 和所泰史

委員 寒川恒夫、江間諒一(抄録集編集担当)、藁科侑希

協力学生 鈴木伊織、高橋千夏、武内亜椰華、馬渕輝

8. 大会事務局

日本スポーツ人類学会第 26 回大会事務局

〒438-0043 静岡県磐田市大原 1572-1

静岡産業大学 スポーツ科学部 和所 泰史 研究室

E-mail:supojin26@ssu.ac.jp

日本スポーツ人類学会 第 26 回大会プログラム

会場: 静岡産業大学磐田キャンパス 2301 教室

I 日目 3月15日(土)

発表時間ですが演題数の関係から 20分(発表15分+質疑応答5分)に短縮しております。

発表番号	時間	頁	演題	発表者	座長
1	12:00-12:20	p.20	バーチャルリアリティ関連技術を用いたバーチャルテコンドー体験に関する展望	鄭稼棋 (東京理科大学)	田里 千代 (天理大学)
2	12:20-12:40	p.21	動物スポーツにおける人間と牛の「種間関係」を紐解く - 沖縄闘牛の発展と「種」としての闘牛ウシ -	小木曾航平 (九州大学)	
3	12:40-13:00	p.22	日本における黒人陸上選手のメディア言説に関する歴史的研究 - 1964年の東京オリンピックに注目して -	大崎 寛 (筑波大学体育専門学群)	川島 浩平 (早稲田大学)
4	13:00-13:20	p.23	令和6年能登半島地震と風流 - UNESCO 無形遺産「青柏祭の曳山行事」の事例 -	大森 重宜 (金沢星稟大学)	

休憩

5	13:30-13:50	p.24	中国の社火儀式における「民俗体育」の研究 - 間中地区を中心に -	趙沢 (九州大学大学院)	張育綺 (山形大学)
6	13:50-14:10	p.25	中国貴州省におけるミャオ族文化とバスケットボールの融合 - 中国貴州省台江县の「村BA」を事例として -	曹応龍 (早稲田大学大学院)	
7	14:10-14:30	p.26	北京中学校の男女別習の体育におけるジェンダー体制の生成	DAI HEJIA (早稲田大学大学院)	

休憩

8	14:40-15:00	p.27	戦前の日本における女子陸上競技に関する歴史的研究 - 村岡美枝に着目して -	喜多綾音 (筑波大学大学院)	山口順子 (津田塾大学)
9	15:00-15:20	p.28	女子スポーツ漫画に描かれたジェンダー表象 - 2010年以降の女子表象の変化を中心に -	ZHANG JINGYI (早稲田大学大学院)	
10	15:20-15:40	p.29	応援団コスモロジー - 女性リーダーの誕生とその文化継承 -	瀬戸邦弘 (鳥取大学)	

時間	頁	演題	演者
16:00-17:00	p.11	【基調講演】エクストリームスポーツの世界: 台湾の事例を中心に	豊島誠也 (立命館大学客員研究員)
休憩(食堂へ移動)			
17:10-19:10	懇親会(場所:静岡産業大学大学食堂)		

時間	理事会(3302教室)
11:00-11:50	

2日目 3月16日(日)

発表番号	時間	頁	演題	発表者	座長
I1	9:00-9:20	p.30	幕末の薩摩藩出水郷における武芸・武術の社会的役割 －竹添弥八兵衛の日記を史料として－	新田 理花子 (筑波大学大学院)	中嶋 哲也 (茨城大学)
I2	9:20-9:40	p.31	地方における古武道 －岡山県を事例として－	足立 賢二 (宝塚医療大学)	
I3	9:40-10:00	p.32	民俗スポーツの熱狂を記述するための試論 -志多伯の獅子加那志と「武の舞」を事例として-	田邊 元 (富山大学)	

休憩

I4	10:10-10:30	p.33	民俗舞踊の観光化における踊り手の意識の変容 —「阿波踊り」の事例一	小林 敦子 (明治大学)	中村 美奈子 (お茶の水女子大学)
I5	10:30-10:50	p.34	茨城県稲敷市阿波に伝承される 「あんば囃子」の動作特性に関する一考察	高橋 京子 (フェリス女学院大学)	
I6	10:50-11:10	p.35	サンバ・ウルバーノ・カリオカ Samba urbano carioca の 文化的混淆—形式的特徴を手掛かりに—	細谷 洋子 (東洋大学)	

休憩

I7	11:20-11:40	p.36	韓国のシルムから見られる民族スポーツの現状	朴 周鳳 (駿河台大学)	真田 久 (筑波大学特命教授・環太平洋大学教授)
I8	11:40-12:00	p.37	独立後のカンボジアにおける体育制度の変容 -1951-2024年 の体育に関する国際支援の動向に着目して-	山口 拓 (筑波大学)	

時間	世話人会(3302教室)	
12:00-12:50		

シンポジウム:遠州伝統スポーツのツーリズム			
時間	頁	演題	演者
I3:00-I3:05	p.14	遠州の伝統スポーツ: そのエクストリームスポーツ化の企て	司会・ファシリテーター:寒川 恒夫 (静岡産業大学特任教授・早稲田大学名誉教授)
I3:05-I3:25	p.15	浜名湾游泳協会の日本泳法指導の経過	中村 尚 (浜名湾游泳協会参与)
I3:25-I3:45	p.17	遠州大念仏について	生熊 孝至 (遠州大念仏保存会会長)
I3:45-I4:05	p.18	新居の手筒花火について	松山 智次郎 (遠州新居手筒花火保存会相談役)

休憩

14:15-15:00	討論会 指定討論者:真田 久(筑波大学特命教授・環太平洋大学教授) 豊島 誠也(立命館大学客員研究員)
-------------	---

時間	総会(2301教室)	
15:15-16:15		

日本スポーツ人類学会第 26 回大会 会長挨拶



筑波大学 特命教授／環太平洋大学 教授

会長 真田 久

日本スポーツ人類学会第 26 回大会を静岡県磐田市にある静岡産業大学にて開催する運びとなりました。本学会の設立当初(1998 年 12 月)から牽引されて来られた寒川恒夫先生の勤務校で開催されますことは、誠に意義深いこと思います。

今大会の一般研究発表は 18 演題で、そのうち学生・大学院生が 7 演題と 4 割を占めており、若手を含めたスポーツ人類学の研究者は着実に増えているといえるでしょう。日頃より本学会の発展にご尽力くださいました会員の皆様に、厚く感謝申し上げます。

さて、「日本スポーツ人類学会第 1 回大会プログラム・抄録」(2000 年 3 月)において、岸野会長(当時)は「人類学とスポーツ」の論考で次のように結ばれています; 日本のスポーツ人類学では地域の実地調査が科学化し、フィールドワークも詳密化してきたこと、人類学は人間科学の諸専門学の橋渡しを行う役割があると社会人類学者 Tim Ingold が述べているが、この言葉は今後のスポーツ人類学研究者に示唆するところ大きいだろう、ということです。

今回の一般研究発表の演題を見ても、詳密なフィールドワークや文献資料による研究成果が示されています。さらに進んでスポーツ諸科学の連携をスポーツ人類学が務めることでスポーツ科学の発展に寄与することになる、との岸野先生のご指摘でした。今大会でのシンポジウムでは、台湾のエクストリームスポーツの基調講演とともに、遠州の伝統スポーツのエクストリームスポーツ化について議論されますが、実際の担い手の方々の思いを踏まえてどのように現実社会に伝統スポーツの価値を創造するのかということは、スポーツ諸科学の重要な課題の一つといえるでしょう。スポーツ人類学がそこにまず入り、他のスポーツ諸科学との連携を形成するきっかけとなり得るものと思います。

話は変わりますが、本学会大会の総会では、新しい役員が選出される予定です。これまで理事、監事として 3 年間ご尽力下さいました役員の方々に厚く感謝申し上げますとともに、新しい役員の皆様のご活躍と会員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、第 26 回大会実行委員長の和所泰史先生はじめ、準備に当立って下さいました関係各位の皆様に厚く感謝申し上げます。

主管校挨拶

日本スポーツ人類学会第 26 回大会を静岡産業大学で開催されることを大変うれしく思います。磐田キャンパスには、学生の半数にあたる 500 人以上が野球、サッカー、体操、バスケットボール、バレーなどに汗を流しています。日本スポーツ人類学会の開催は、スポーツが好きな学生にとっても、広視野からスポーツを考える大きなきっかけになると感謝をしています。

磐田市は都道府県魅力度ランキング「スポーツのまち」でトップの位置にいます。静岡産業大学は、磐田市や商工会議所と一緒に、磐田市が世界でも「スポーツのまち」のトップ地域となるよう様々な取組をしています。例えば、私（学長）は、世界一長い 1000 メートルの綱引きを提案していますが、持ち運びができ、手ごろな太さの 1000 メートルの綱を作るには素材と製造技術の研究が必要であり、実現までに少し時間が必要な状況です。1000 メートル綱引きが実現できれば、新しい綱引き文化も生まれるのではないかと楽しい想像をしています。

全国からこの大会に参加された方々が、未来に向かってスポーツの可能性と文化の多様性について活発に議論をし、多くの成果が生まれることをご期待いたします。

静岡産業大学学長 堀川知廣

日本スポーツ人類学会第 26 回大会を、静岡産業大学で開催できることを嬉しく思います。スポーツ科学部は 2021 年度に開設し、23 年度には日本トレーニング科学会を、24 年度には貴学会を誘致できましたことは、本学が研究機関として認知されている証と思っております。本学には、寒川恒夫先生（早稲田大学名誉教授）はじめ、小林寛道先生（東京大学名誉教授）など著名な研究者がおります。

私事になりますが、貴学会初代会長の岸野雄三先生は大学時代の恩師でした。先生は、カリキュラムはラテン語の currere（古代ローマの競技場の走路）に由来すると話されたことを、今でも鮮明に覚えています。寒川先生は同僚です。白シャツにサスペンダーのいで立ちで、黒板にどんどん書いては消し、また書くという教授スタイルを貫いています。その勢いに、スポーツ人類学に興味を持った学生たちがいます。

静岡産業大学と磐田駅の間にある大池は、かつて徳川家康が鷹狩に訪れた地です。駿府城から来る道すがら民の暮らしぶりを見て、仕留めた獲物は兵と共に同じ鍋で舌鼓を打ち、戦のない太平の世を創られました。家康が願ったように、貴学会から世界平和の烽火があがりますことを祈念しております。

静岡産業大学スポーツ科学部長 高橋和子

会場図

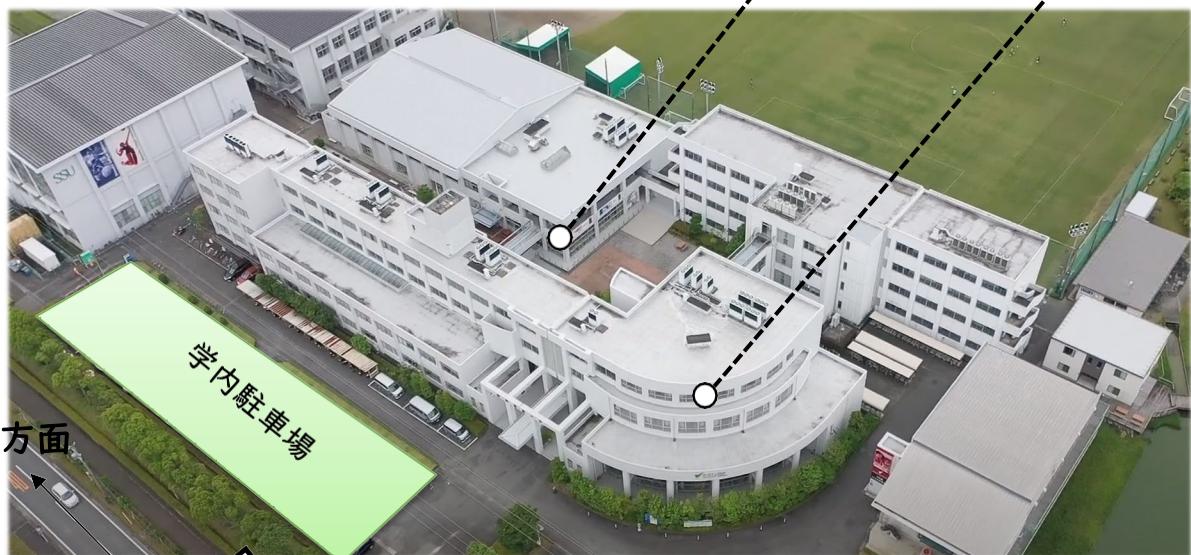
全体図



上空図

食堂 講演等会場
(2階立て) (2号館3階2301教室)

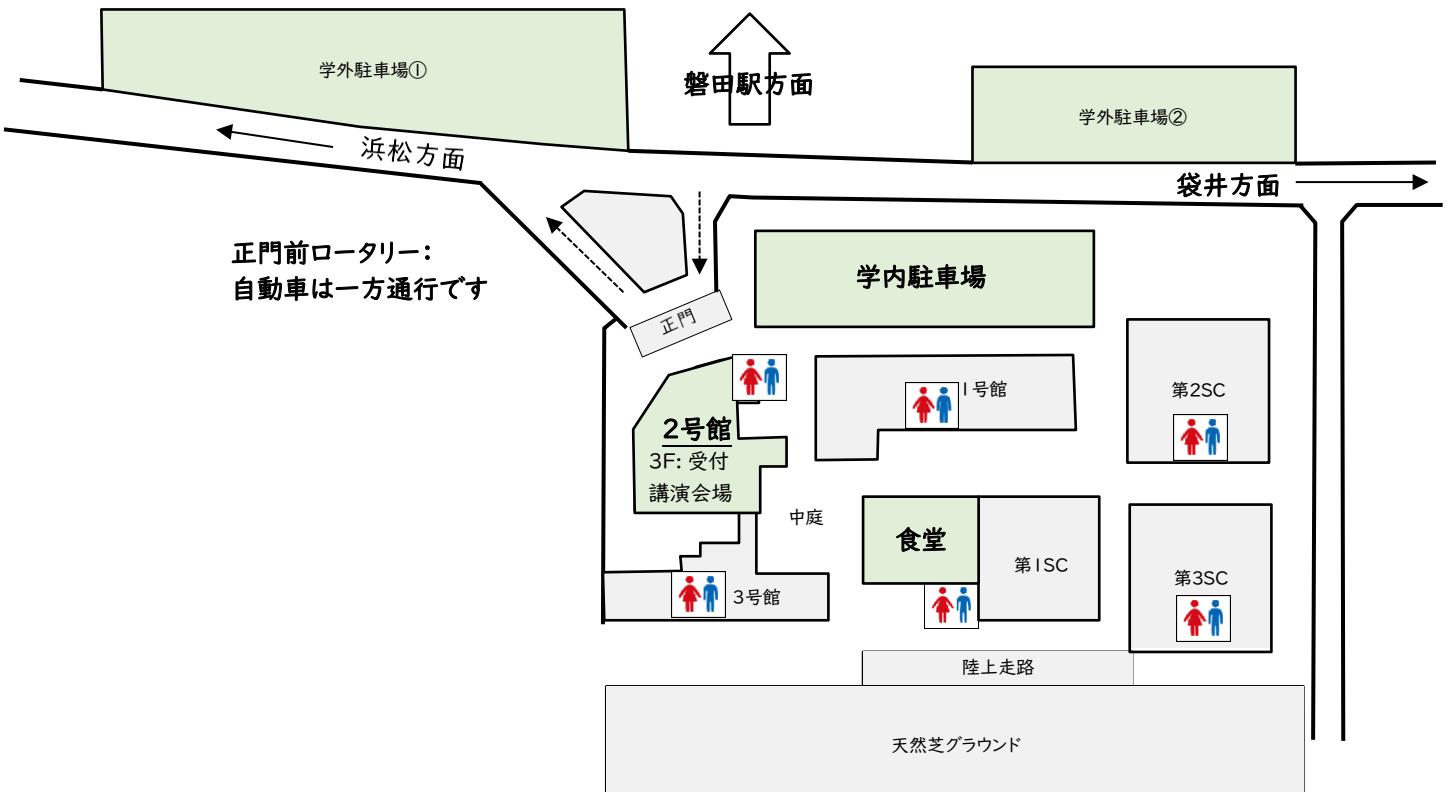
袋井方面



受付は2号館3階にございます。正門を入りましたら、目の前
の建物です

浜松方面

I階(地上階)マップ



3階マップ



参加者へのお知らせとお願ひ

1. 大会受付

受付および受付時間は、以下の通りです。学生の方は、学生証を忘れずに持参してください。

3月15日(土)1日目:11時00分~2号館2301教室前

3月16日(日)2日目:8時30分~2号館2301教室前

受付にてネームカードと資料等をお受け取りください。

2. 当日参加について

受付にて区分に応じた当日参加費をお支払いいただき、受付を行ってください。

当日参加費 一般会員・非会員:4,000円、学生会員・非会員:2,000円

3. ネームカード

受付時にネームカードをお渡しいたします。大会期間中は必ず身に付けてください。

4. クローク

クロークはございません。各自で荷物等の管理をお願いいたします。2301教室後方を、荷物を置くスペースとしてご利用いただく予定です(当日、スタッフの説明に従ってください)。

5. 大会参加費

・一般:4,000円(会員・非会員とも)

・学生:2,000円(会員・非会員とも)

・高校生以下:無料とさせて頂きます(本資格で口頭発表はできません)。

・シンポジウムのみ:無料とさせて頂きます。

6. 主な会場

一般研究発表およびすべての講演は2号館3階2301教室で開催いたします。

7. 昼食について

大学周辺から飲食店までは徒歩10分ほど要します。そのため、3月16日(日)は大学の食堂を開放いたします。どうぞ、ご利用ください。大会期間中、売店などは開いておりません。学内に自動販売機はございます。

8. 懇親会について

1日目の夕方に懇親会を実施します。会場は食堂です。当日のお申込みも可能ですので、受付でお申し出ください。会費は一般:4,000円、学生3,000円です。多くの方のご参加をお待ちしております。

9. 休憩所・交流会場

2303 教室、食堂を休憩・打ち合わせスペースとしてご利用ください。

10. 総会

大会 2 日目(3月 16 日[日])15 時 15 分より 2301 教室にて、日本スポーツ人類学会総会を開催いたします。

11. 感染症対策について

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染拡大予防のため、施設内の感染症対策にご協力ください。体調がすぐれない方、発熱している方などはご来場をお控えいただくようお願いいたします。

12. ネットワークについて

大会専用のネットワークを準備いたします。一時的なものですので、負荷のかかるご使用はお控え下さい。また、Microsoft Teams をご利用いただくことができません。不具合等への対応は致しかねます。

SSID:jssa26_guest PW:ssu2025031516

13. トラブル対応について

大会参加および発表に際してトラブル等が生じた場合でも、日本スポーツ人類学会ならびに日本スポーツ人類学会第 26 回大会事務局は、その責任を負いません。

14. お問い合わせ

ご不明な点などがありましたら、スタッフまでお声がけください。スタッフは青色のネームカードをつけております。

研究発表に関するご案内

1. 発表受付

発表受付は、大会受付と共にお済ませください。一般研究発表は全て口頭発表です。

2. 発表時間

1 演題 20 分(発表 15 分、質疑 5 分)の予定です。発表終了 3 分前、発表終了時刻、質疑応答時刻にベルを鳴らします。次演者は、発表者席付近で待機してください。

3. 発表方法等

会場備え付けの PC (Windows、HDMI ケーブルで接続)をご利用いただきか、ご自身の PC を持参してください。Mac を利用される場合は、HDMI へ接続する変換コネクタを各自で持参してください。データの移動、動作確認は、発表セッション前の休憩時間に行ってください（スタッフまでお申し付けください）。配布資料がある場合は、50 部ご持参いただき、受付スタッフにお渡しください。

基調講演

エクストリームスポーツの世界：
台湾の事例を中心に

エクストリームスポーツの世界:台湾の事例を中心に



豊島 誠也

(立命館大学人文科学研究所 客員協力研究員)

エクストリームスポーツとは、日本語に直訳すると「極限・過激なスポーツ」という意味になる。その名のごとく、危険を伴いながらも体力の限界に挑戦し、技のダイナミックさや創造性によって観る者を魅了することを重視するスポーツの総称である。1960~70 年代にアメリカで誕生したこの新しいスポーツジャンルには、スケートボード、BMX、クライミング、ベースジャンプなど多様な種目が含まれており、それぞれの種目で熱心な愛好家が存在している。また別名「ライフスタイルスポーツ」とも呼ばれ、若者を中心に広がるファッショや音楽などの文化的要素と融合しながら、若者文化の一部として確立されてきた。その特徴は、身体的リスクを伴いつつも、アグレッシブな動きや激しさ、そして自由でクリエイティブな発想や表現をすることにある。さらには、近代スポーツなどの主流スポーツに対しての抵抗<カウンター>やオルタナティブとして発展してきた経緯もあり、記録への追及よりも、個人の目標達成や自己表現、仲間との連帯感といった過程を重視する傾向が強い。エクストリームスポーツを定義するならば、「危険や極限状態を含み、若者を中心として魅了していくスポーツ」といえるだろう。

本講演では、人類学的な視点からエクストリームスポーツを分析する可能性を提案したい。具体的には、従来スポーツ人類学が主として扱ってきた伝統スポーツに着目し、エクストリームスポーツとの接点を探る。特に、発表者が調査を進めてきた台湾の伝統スポーツを中心に議論を展開する。伝統スポーツとエクストリームスポーツが類似したものと見られる様相、そしてそれら伝統スポーツの担い手たちの反応を参考に、両スポーツが交わることによって生じる多層的な意味について概観していきたい。

【シンポジウム】

「遠州伝統スポーツのツーリズム」

●司会・ファシリテーター

寒川 恒夫（早稲田大学名誉教授・静岡産業大学特任教授）

●シンポジスト

中村 尚（浜名湾游泳協会参与）「浜名湾游泳協会の日本泳法指導の経過」

生熊 孝至（遠州大念佛保存会会長）「遠州大念佛について」

松山 智次郎（遠州新居手筒花火保存会相談役）「新居の手筒花火について」

●指定討論者

真田 久（筑波大学特命教授・環太平洋大学教授）

豊島 誠也（立命館大学客員研究員）

「遠州の伝統スポーツ:そのエクストリームスポーツ化の企て」

司会・ファシリテーター：

寒川恒夫（早稲田大学名誉教授・静岡産業大学特任教授）



遠州（遠江国とおとうみのくに）は大井川以西の静岡県を指す旧称です。7世紀後半に遠淡国造、九努国造、素賀国造の領域を合せて成立した大国で、浜名湖と天竜川それに好漁場の遠州灘を擁するこの豊かな地には古くから伝統的スポーツが数多く伝承されてきました。

本シンポジウムは、こうした伝統スポーツをツーリズム展開する一法としてエクストリームスポーツ化の可能性について討論しようとしています。スポーツ科学やスポーツ人類学では、これまで、安心・安全を旨としたスポーツについての研究がもっぱらで、敢えて危険を求めるエクストリームスポーツは敬遠され排除される傾向がありました。しかし、世界におこなわれる伝統スポーツ・民族スポーツには、例えばペントコスト島のランド・ダイビングなど危険を伴うたぐいのものが数多く確認されます。カイヨワ遊戯概念のイリンクス（めまい）に基づけられたエクストリームスポーツは古代以来今日まで我々を妖しく魅了し続けてきました。遠州の伝統スポーツにも安全なものから危険なものまでさまざまな種目が実践されます。大念佛踊り、日本泳法、手筒花火を取り上げ、伝承者の方々から内容紹介を受けた後、二人の指定討論者を交えてエクストリームスポーツ化の可能性について議論を展開してゆきます。